

香港に大型シャー出荷

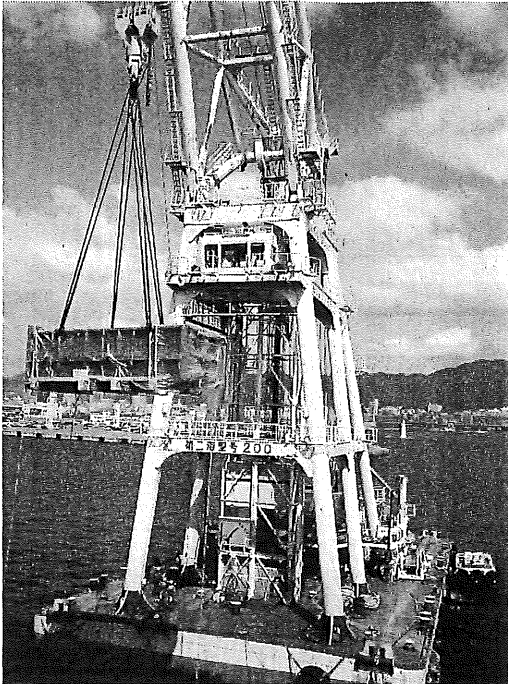
環境機器メーカー大手の富士車両（本社：滋賀県守山市、津田弘史社長）は、香港・鉄筋棒鋼メーカーの紹榮鋼鐵有限公司（Shiu Wing Steel、以下SWS）から大型鉄スクラップ加工処理設備を受注し、このほど出荷した。設備稼働は来年1～2月を予定している。

鉄スクラップ加工処理用

富士車両 鉄筋メーカーから受注

今回、富士車両が受注したのは1600ト入ホックスが大型で、高さ高い下級スクラップを大量に投入、加工

処理できる。加工処理の鉄スクラップ加工処理設備受注・納入は2005年の現代製鉄



海外鉄鋼メーカーへの受注・納入は4年ぶり(写真は船積み風景)

（当時INTEESTEEL・仁川工場）以来、約4年ぶり。東アジアからの引き合いは「これまで韓国、台湾が中心だったが、ここ最近是中国からの問い合わせも増加している」（富士車両）という。

やプレス機、シュレッダープラントなどの加工設備を所有し、鉄スクラップ処理を行って電炉・高炉メーカーに納入するが、韓国など東アジア圏では鉄鋼メーカーが設備を持ち、自社で鉄スクラップを加工するのが一般的。SWSでは韓国メーカーなどと同様に、鉄スクラップの自社加工を開始する。